令和５年度第２回新子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

１　開催日時

令和５年９月１１日（月）　１３：３０～１５：３０
岐阜県庁　１７階会議室及びオンラインにて開催

２　概要

現行プランの成果と課題、次期プランの方向性について、意見を聴取した。

３　委員から出された主な意見

・高等特別支援学校機能の東濃地域、飛騨地域への展開は、設置基準に基づく整備とセットで取り組んでいく必要がある。
・高等学校からの途切れのない就業・生活支援について、障がい者就業・生活支援センターと高等学校の進路指導担当が連携して取り組んでいけるとよい。
・引き継がれた支援の情報をいかに児童生徒の支援に具体的に表していくかという課題について、研修又は学校教育の場で具体的な手立てが示せるとよい。
・飛騨地域の高等学校で行われている他校型の通級指導に、巡回型が加われば、より効果的な支援が可能となるため、巡回型の導入について検討いただきたい。
・過疎化していく地域における高等学校の在り方、特別支援学校の在り方について一緒に検討していく必要がある。
・地域によって受けられる支援に格差があるのはよくないことであり、どの地域にも万遍なく支援がなされるべきである。
・インクルーシブな学校運営について、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒の間の垣根が少しずつなくなっていくよう、引き続き取り組んでいただきたい。
・コア・ティーチャーの専門性を県内全体に浸透させていくような指導体制づくりを進めていただきたい。
・発達障がい支援担当教員養成についてオンデマンド研修を大幅に導入していただき、大変ありがたい。
・インクルーシブな学校運営について、他県の事例も参考にするとよい。
・小学校・中学校と特別支援学校との間に乗り越えられない壁のような存在を感じる。また、そこには緩やかな学びの連続性というものがあまりないように感じるが、何とか上手くつなげられないものか。
・居住地校交流は、小学校・中学校の先生にとっても新たな気づきや学びが得られる良い機会にもなっていることから、次期プランにも何らかのかたちで盛り込まれるとよい。
・コア・ティーチャーの活用、切れ目ない支援体制といった基本的な部分の強化を前提として、次期プランを作成いただきたい。
・障がい者の卒業後の長い人生を見据え、地域における余暇の過ごし方などについて教育現場においても具体的に示していただけるとありがたい。
・地域の小学校、中学校、特別支援学校、福祉施設が一つのチームとして互いに連携し支えあう体制づくりについて考えていけるとよい。
・研修になかなか参加できない教員もいるという現状を踏まえ、学校現場における日常的な困り事についてその場で実際に学ぶＯＪＴの仕組みを整える必要がある。

・高等学校にも、発達障がいの疑いのある生徒が多く在籍しており、教育研修課には、今年の成果を踏まえ、特別支援学校の教員も高等学校の教員も力をつけられるような機会づくり、アプローチについて検討いただきたい。
・郡上特別支援学校の整備について、１校舎体制の早期実現を次期プランに掲げていただきたい。
・小学校・中学校の通常学級にいる障がいのある児童生徒の支援について、次期プランで方向性を示していただきたい。
・医療的ケアが必要な児童生徒の命を守るという観点から、看護師の十分な配置をお願いしたい。
・医療的ケアが必要な児童の通学支援をどのように進めていくのか、方向性を示していただきたい。
・教員の専門性の向上も大事だが、まずは教員の数が充足していなければならない。
・特別支援学校の中でどうしても解決できない課題について、コア・ティーチャーにオンラインで定期的にケース会議に参加していただきたい。あるいは、コア・ティーチャーの中からスーパーバイザーを養成し、そのスーパーバイザーが積極的にリーダーシップを発揮するような仕組みがあるとありがたい。